



16 番

二村 勝己 議員

地域づくりと学校教育について

①少子高齢化、人口減少が進む中、地域が元気になるためには、地域で生まれ育った子ども達が進学等しても地域に帰り、地域を守り大切にするという人づくり教育こそが、肝要であると考えるがその取り組みは

◆教育長

市内の小中学校では、その校区に関わった特色あるふるさと教育を実践しています。また、地域行事に参加することによって、子どもたちの心根に「ふるさこのよさ」「ふるさこのおい」が定着していくのではと考えます。

②馬瀬中学校統廃合は地域の衰退につながらないか。また住民合意は

◆教育長

保護者のみなさんは、馬瀬中学校の在り方について論議を積み重ねられ、地域の皆さんへも「より多くの子どもたちと一緒に学校生活をさせたい」という思いや願いを述べられました。「地域の衰退」については、保護者の皆さんも考えられたうえで苦渋の決断をされ

ました。今後、統合校をどこにするか、どのように統合するかを含め、地域の方へ丁寧な説明をしていきます。

③強力な婚活推進による人口増加策は

◆福祉部長

結婚相談・出会いの場の情報提供など、関係者の協力を得ながら包括的な支援体制づくりを進めていきます。

安心安全な地域防災について

各地で様々な自然災害が発生しています。下呂市でも近年、大雨による災害が発生しており、今後とも危惧されます。自分の住む地域の河川や裏山等を地域住民皆で点検し、有事の際の対応を迅速に進めるための気運を強力に進めるべきではないか。

◆総務部長

市では、毎月28日の下呂市防災点検の日を中心に、ホームページやメール配信サービスなど活用し啓発活動に取り組んでいます。大切なことは、市民の皆様それぞれがいかに危機意識を持ち、自主的に取り組めるかどうかです。防災訓練等を通し、具体的な事例を紹介しながら更なる啓発に努めます。



10 番

服部 秀洋 議員

身だしなみを整え、いきいきと

高齢化率が高まる一方で、その施策は益々本人負担増になっているのが現状だ。心身ともに健康で過ごして頂けるような取り組み、例えば身だしなみを整える事も、生活に張りも出て、生きがいややる気を創出し、認知症予防につながると言われている。今後、市として高齢者に対する助成の方策を伺う。

◆福祉部長

身だしなみを整えることが認知症予防につながるとともに、閉じこもりを防ぎ高齢者の外出意欲を高めるうえで効果があると思います。訪問理美容サービスについては在宅介護者等のご意見、地域の理美容団体のご意見を聴きながら検討していく必要があると考えます。また、高齢者の方が地域社会で活躍、貢献できるような生きがいづくりの支援も大切です。

中学生海外派遣事業の成果は

下呂市が交流を重ねてきた米国のケチカン市、ペンサコーラ市と

もに10周年を迎えた。1987年より旧金山町がケチカン市との交流開始、1989年から旧萩原町がペンサコーラ市と交流を開始、派遣・訪問団として参加した人数は現在までに1,800名に及んでいる。その実績と今後の方向性について伺う。

◆教育長

ホームステイで言葉が分からなくても人と人との思いやりや優しさを感じて友達や家族、あるいは相互交流などで生かそうとする生徒や、英語圏の生活や文化をさらに学ぼうとする生徒など、期間は短いものの中身の濃い研修ができたと考えています。今年は両市との友好都市提携10周年記念の年で、7月にそれぞれの式典に市の代表や交流協会の方々と出席をし、2つの友好都市との価値ある交流を継続することを確認していきます。



琴の体験をするケチカン訪問団
(下原公民館)